⑹　昆虫類　⑥ シリアゲムシ目

シリアゲムシ（長翅）目は古生代ペルム紀の、約 3 億年前の地層から化石が出土している起源の古い昆虫で、現在では世界に 9 科約 500 種が知られ、日本では 4 科 5 属 45 種が知られている。埼玉県では前版で 2 科 19 種が記録されていたが、現在は 3 科 21 種が知られるにいたった。さらに調査が進めば数種が追加される可能性がある。

これまでのシリアゲムシ目昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版から前版までは同じ 8 種がレッドリストにあげられていたが、本書ではそのうちのヤマトシリアゲがリストから外れ、新たに主に山地性の種 6 種を追加し、計 13 種をレッドリスト掲載種とした。これは県内から記録されている 21 種の約 62％にあたる。ヤマトシリアゲは前版まで「絶滅の恐れのある地域個体群」とされてきたが、県内に健全な生息地が多く存在することが判明したため、今回、リストから除外することにした。

シリアゲムシ目昆虫は、体は黄褐色から黒褐色で頭部は口吻が長く伸び、特異な容貌を呈している。胸部には 2 対の翅をもち、翅は膜質で褐色から黒色の翅斑あるいは帯紋をもつ種が多い。前翅長は退化したものを除いて 10 ～ 25mm。静止時は翅を開いたまま、折りたためない。シリアゲムシ科、シリアゲモドキ科のオス腹端は把握器として大きな鋏状となり、常に背側に巻き上げていて、シリアゲムシの名前もここからきている。メス腹部は徐々に細まるが、やはり若干巻き上げる。一方、ガガンボモドキ科はハエ目のガガンボのように体が細く、6 本の胸脚も細長く伸びていて、弱々しく飛翔する。

いずれにしてもこの仲間は飛翔力が弱く、互いに離れた生息地間の交流がない。従って本州特産種も多く、中部山岳地帯から関東山地にかけて分布するものや、関東山地から東北地方に分布が限られた種もいる。県内でも多くの種は山地帯から亜高山帯にかけて生息しており、このことはシリアゲムシ目の起源の古さと関係がある。外来種は侵入していない。

一般に湿り気の多い樹林内や林縁に多く、森林が伐採され荒れ地となって土地が乾燥してくる、あるいは人工林が放置され林内が暗くなってくると生息が阻害される。

幼虫、成虫ともに肉食性、腐肉食性で、繁殖期に婚姻贈呈をする種も知られている。

特異な種はシリアゲモドキ科のスカシシリアゲモドキで、高標高地に生息するものはメスの翅が退化して短翅になる。当然のことながら飛翔できない。長翅型との間で生息地が連続せず、生殖隔離が生じているものと考えられる。

ヤマトシリアゲを除いて年 1 化で、初夏から盛夏にかけて成虫が出現する。

［付記］次ページ以降の種ごとの解説における形態や国内分布に関する項目は、市川（2006）および鈴木（1997）を参照した。

科　名　ガガンボモドキ科
〔和　名〕 **ヤマトガガンボモドキ**
〔学　名〕 *Bittacus nipponicus* Navás

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 前翅長 22mm 内外。頭部の左右触角の基部の間に横溝がある。翅端部の横脈はかすかにくもる。縁紋と脛脈を結ぶ横脈は 2 本。

【国内分布】 本州（関東地方周辺）

【主な生息環境】 かつては『東京附近の林間に普通なり』と記された（一色 , 1932）が、近年では記録が少ない。

【県内での生息状況】 旧浦和市（現さいたま市）の秋ヶ瀬、熊谷市から記録されている（牧林 , 1998）以外、詳しいことは判っていない。6 月から 8 月上旬に成虫が出現する。

【特記事項】 かつてはガガンボモドキと呼称された。近似種に、記載されていない通称サイタマガガンボモドキがあるが、分類学的位置づけが定まっていない。近県ランク　長野 : NT、千葉 : C、茨城 : 希少種。

科　名　シリアゲムシ科
〔和　名〕 **ミヤケシリアゲ**
〔学　名〕 *Panorpa tsunekatanis* Issiki

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 前翅長 15mm 未満の小型種。頭楯全体が黒色。前翅前縁、外縁に黒条があり、前縁より後縁にかけておぼろげな逆Y字状の2本の黒条と、その外側に分枝しない黒条がある。下付器の枝は同幅。

【国内分布】 本州（関東地方および中部地方の山地帯から亜高山帯にかけて分布）

【主な生息環境】 山地帯上部から亜高山帯にかけての疎林内に生息すると考えられるが、詳しい生態は不明。

【県内での生息状況】 城峰山（皆野町・秩父市）、旧大滝村（現秩父市）、甲武信ヶ岳から記録されている（牧林 , 1992）。山地帯上部より高標高地に生息すると考えられるが詳細は不明。

【特記事項】

科　名　シリアゲムシ科
〔和　名〕 **ホソオビトゲシリアゲ**
〔学　名〕 *Panorpa miyakeiella* Miyamoto

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 両翅のほぼ中央に前縁から後縁にかけて細い黒条が走る。

【国内分布】 本州（東北地方から関東山地にかけて生息）

【主な生息環境】 山地性のシリアゲムシで、山地帯上部から亜高山帯にかけて生息すると考えられるが、生息環境の詳細は不明。

【県内での生息状況】 旧大滝村（現秩父市）の三峰山、十文字峠から記録されている（牧林 , 1992）のみで、詳しい生息状況は判っていない。成虫は 7 月から 8 月にかけて出現する。

【特記事項】

科　名　ガガンボモドキ科
〔和　名〕 **ツマグロヒメガガンボモドキ**
〔学　名〕 *Bittacus marginatus* Miyake

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 前翅長 17mm 程度の小型種。体は褐色から暗褐色で、両翅端に黒色斑をもつ。後脚跗節第 2 ～ 5 節の長さはそれぞれ等長。オスの上付器は背方に突出する。

【国内分布】 本州（中部地方から近畿地方）、四国（山地）

【主な生息環境】 標高 1,000 m以上の森林周辺部に生息するが、群棲せず、個体数は少ない。

【県内での生息状況】 旧大滝村（現秩父市）からの記録が知られているのみ（釣巻 , 投稿中）で、詳しい分布状況は判ってない。

【特記事項】

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ツマグロシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa lewisi* Maclachlan

指定状況　－

【形　　態】 前翅長 16 ～ 20mm の比較的大型の種。翅端部と縁紋内角の小紋は黒褐色。体は黒色。オス第 6 腹節は長く、第 7 節と等長である。

【国内分布】 本州（関東地方北部、中部山岳地帯の特産種）

【主な生息環境】 山地帯上部から亜高山帯にかけての、広葉樹林内のやや乾燥した場所に生息する。

【県内での生息状況】 奥秩父および武甲山に生息するが、主な生息域は 1,300 m以上（牧林 , 1992）。成虫は 6 月下旬から 8 月にかけて出現し、屍体などから吸汁する。夜間、灯火にも飛来する。

【特記事項】

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ニッコウホシシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa leucoptera* Uhler

指定状況　－

【形　　態】 前翅長 13 ～ 16mm と比較的小型。普通、前翅に 5 個の小黒斑をもつ。体は黄褐色。オス第 3 腹節背板に短い棒状突起をもつ。下付器の両腕基部の中間に 1 対の直立した剛毛束がある。

【国内分布】 本州（関東地方および中部地方の山岳地帯）

【主な生息環境】 標高 1,000 m以上の疎林中、または周辺部に生息し、昆虫などの小動物の屍体から吸汁する。

【県内での生息状況】 奥秩父山地および武甲山の標高 1,000 m以上の高標高地に生息する。成虫は 6 月中旬から 8 月中旬まで出現する。夜間、灯火にも飛来する。

【特記事項】 県 RDB 前版（埼玉県 , 2008）では生息範囲を標高 1,100 m以上としたが、その後の調査でより低標高地でも発見された（牧林 , 1992; 田悟 , 2016）。

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ハクサンシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa hakusanensis* Miyake

指定状況　－

【形　　態】 前翅長 15 ～ 17mm。前後翅にわたって微かな 3 条の黒褐色帯をもつ。オス第 8 腹節はやや短く、両側の棘状突起は太く、先端が丸い。

【国内分布】 本州（関東地方および中部地方の山岳地帯の森林限界まで）

【主な生息環境】 従来、標高 1,800 mから 2,700 mにかけての高標高地から記録されていたが、今回、低標高地にも生息することが判明した。

【県内での生息状況】 秩父市大滝地区川又、入川（小赤沢）から和名倉山山頂にかけて生息する（釣巻 , 投稿中）が、高標高地の方が生息密度は高い。6 月後半から 8 月にかけて出現する。

【特記事項】 灯火に飛来することが多く、夜行性が強いように思われる。

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **シバカワトゲシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa arakawae* Miyake

指定状況　－

【形　態】 前翅長 約 15mm。翅は無色透明だが基部は橙黄色で暗褐色斑あり。体色は黒色で、オス第 6 腹節背部から顕著な棘状突起を伸ばす。

【国内分布】 本州（関東山地から長野県北半の山地）

【主な生息環境】 関東山地から中部山岳地帯などの山地帯、亜高山帯の灌木林に生息し、昆虫など動物の屍体から吸汁する。乳酸菌飲料の水溶液にも飛来することから腐果からも吸汁する可能性がある。

【県内での生息状況】 従来、武甲山山頂のみで知られていた（牧林 , 1992）が、近年の調査で秩父市大滝地区川又から和名倉山山頂にかけて広く生息していることがわかった（釣巻 , 投稿中）。特に高標高地では個体数が多い。

【特記事項】 5 月下旬から 8 月にかけて成虫が出現し、夜間、灯火にも飛来する。

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ミスジシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa trizounata* Miyake

指定状況　－

【形　態】 前翅長 14 ～ 19mm。体は黒色。前後翅にわたって 3 本の黒帯をもつ。オス第 6 ～ 8 腹節はほぼ等長。下付器の柄部と両腕は長い。

【国内分布】 本州、九州

【主な生息環境】 山地帯（標高 800 ～ 1,600 m）を中心に、林縁部から林内にかけて生息すると考えられる。

【県内での生息状況】 和名倉山川又道下部（標高 950 m）から得られており、さらに秩父市大滝地区川又から入川小赤沢にかけての調査でも記録された（田悟 , 2016）。7 月に出現する。

【特記事項】 近県ランク　千葉：VU、栃木：要注目種。

科　名　シリアゲムシ科

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **オオハサミシリアゲ**

〔学　名〕 *Panorpa bicornuta* MacLachlan

指定状況　－

【形　態】 体は黒色。前翅長 14 ～ 16mm。オス第 6 ～ 8 腹節は短く、第 8 腹節両側の後端は細く尖る。

【国内分布】 本州（東北地方から中部地方にかけての山地）

【主な生息環境】 山地帯の標高 1,400 m あたりから亜高山帯の 2,200 m にかけて生息するという。本県での記録は、それより低標高地での記録である。

【県内での生息状況】 秩父市の和名倉山曲沢（標高 1,280 m 地点）からメス 1 頭が得られている（釣巻 , 投稿中）が、それ以外の情報はない。

【特記事項】 上記の個体は、2013 年 6 月 19 日に沢筋で実施した灯火調査に飛来したもの。近隣県では、栃木・群馬・長野の各県から記録されている。

科　名　シリアゲモドキ科

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **スカシシリアゲモドキ　短翅型**

〔学　名〕 *Panorpodes paradoxa* f.

指定状況　－

【形　　態】 長翅型の前翅長 15 ～ 17mm に対し、短翅型では 7mm 内外に萎縮している。

【国内分布】 本州（中部山岳地帯および秩父山地）

【主な生息環境】 亜高山針葉樹林帯より上部に分布する。日本海側多雪地帯で針葉樹林帯を欠く地域には分布していない。

【県内での生息状況】 秩父市の和名倉山の標高 1,700 mから 2,036 mの山頂にかけて、7 月中旬から 8 月上旬にかけて記録されている（釣巻 , 投稿中）。

【特記事項】 日本産シリアゲムシ目中、最も高所に分布し、タカネシリアゲモドキとも呼ばれる。高標高地に適応したと考えられる短翅型のメスは飛翔能力を欠く。日中は下草の中で休息し、日没後に茎を登って花粉を食べ、葉上でオスの飛来を待つという生活を送る。長翅型は標高 1,300 m以下に分布し、標高 1,300 ～ 1,700 mの間に分布の空白地帯がある。短翅型と長翅型の分類学的位置づけは未解決。近県ランク　長野：VU。

科　名　ガガンボモドキ科

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **トガリバガガンボモドキ**

〔学　名〕 *Bittacus mastrilli* Navás

指定状況　－

【形　　態】 前翅長 20mm 内外。翅の外、後縁はほぼ直線上で後角に丸みを欠く。後脚跗節は太くて短く、第 2・第 3 節は等長。

【国内分布】 本州（東北地方南部から近畿地方にかけての山地に分布）

【主な生息環境】 標高 1,000 ～ 2,000 m附近の林内に生息する。

【県内での生息状況】 秩父市大滝地区二瀬、川又、入川から和名倉山山頂（標高 2,036 m）にかけて記録されている（牧林 , 1992）。

【特記事項】 日没後に花の上で訪花する昆虫を待ち伏せして捕らえることが知られている（鈴木 , 1997）。夜間は灯火に飛来するが、詳しい生態は明らかでない。

科　名　ガガンボモドキ科

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　DD

〔和　名〕 **ホシガガンボモドキ**

〔学　名〕 *Bittacus sinensis* Walker

指定状況　－

【形　　態】 前翅長 24mm 内外。翅基半部の翅脈分岐点に 4 つの黒点がある。

【国内分布】 本州（関東地方以西）、九州

【主な生息環境】 比較的湿った林内に生息するといわれているが、詳細は不明。

【県内での生息状況】 大宮台地西縁のみから記録されている（田悟 , 2015）が、詳しい生息状況は不明。

【特記事項】 ヨシ原内で得られており、湿地に生息している可能性もある。近県ランク　栃木：絶滅危惧 I 類。